令和2年度　1学期　終業式　講話

　入学式を簡略化し、6月の分散登校から始まった1学期でした。

　暦の上では、今日は「立秋」。今日から秋になります。

　本当に長い1学期でした。

　その長い1学期の終業式にあたりふたつお願いしたと思います。

　ひとつは、感染が拡がっているコロナウイルスについてです。

　以前にもお話しましが、人類の歴史はウイルスとの闘いでした。

　平安時代の本を読んでも室町時代の手紙のなかにも、ウイルスと戦っていることが書かれていたりします。ヨ－ロッパの中世と呼ばれる時代では、ペストとよばれる病気が流行し、歴史そのものを変えたりしました。

　大正時代の日本では、スペイン風邪というウイルスの病気が蔓延し、保健所を全国で増やしていったり、水道を整備したりと、私たちの祖先もウイルスと戦った来ました。

　みなさんにお願いのひとつ目です。

　昨日は広島に原爆が落とされた日でした。まもなく長崎に投下された日も近づいています。75年がたつと、実際に原爆を体験された人が減ってきました。あってはならないことですが、原爆の記憶が薄れていき、歴史の教科書の年表の一行になりかかっています。

　「戦争はだめだ」ということをみなさんに伝えていくことが、学校の大切な仕事だと思っています。そして、お願いです。

　この1学期、コロナウイルスでみなさんはいろいろと苦労したと思います。おうちの人も大変な体験をしました。つらい思いをしたり気持ちがしんどくなったり。

　この1学期に経験したこと感じたことをしっかりと記憶して、後々まで語り継いでほしいとおもいます。今も続くこの災難の体験をしっかりと胸に刻んであとから来る人に伝えていってください。

　二つ目のお願いは、短い夏休みですが、今までどおり規則正しい生活を送ってください。

　先日配布しました「保健だより」にもありましたが、しっかりと眠って好き嫌いなく食べてしっかり運動し、手洗いを行っていれば、ウイルスに襲われても、みなさんなら大丈夫です。

　これまでの夏休み以上に規則正しい生活を送って、2週間後の2学期の始業式でみなさんの新鮮な笑顔に会えることを楽しみにしています。

　ふたつお願いをしました。

　終わります。